

令和6年度 豊浜小学校 学校経営構想

1 校訓 「 明るく 正しく 強く 」

2 本校および豊浜地区の歴史

豊浜は大規模な災害を何度も乗り越えてきた共助の精神が息づく地域であり、江戸の時代から歴史的文化的遺産を保存・継承してきたことに誇りをもった地域でもあります。豊浜の地域の歴史や文化を知ることこそ、本校の教育の出発点です。

(1) 大島学校から磐田市立豊浜小学校までの変遷

学制発布の翌年明治6年12月17日、大島の大安寺を仮用して大島学校が開校した。明治9年、大島・雁代・小島方の3か村が合併し豊浜村となり、校名も豊浜学校と改められた。この「豊浜」の名は、市井策馬が生みの親である。その後、明治20年啓迪（けいてき）学校、豊浜尋常小学校、豊浜村国民学校、昭和30年福田町立豊浜小学校、平成17年磐田市立豊浜小学校となり、令和5年12月17日で開校150年となった。

(2) 初代校長 市井策馬と校務日誌（磐田市有形文化財 歴史資料）

校長室文化財鉄庫に保存される校務日誌52冊は、磐田市指定の有形文化財歴史資料であり、明治時代の学校生活や行事を知る上で貴重な資料である。記録した市井策馬訓導（旧制小学校教諭）は、明治7年に大島学校に就任し、大正4年退職するまでの40年間、一貫して豊浜の教育に尽力した。郷土の俳人早苗庵知碩（加藤知碩）も明治6年開校当時から豊浜学校の授業生（教員）となり校務日誌を執筆している。

(3) 萬勝号と豊浜唐人橋

江戸時代（1800年）、長崎に向かった清国の商船「萬勝号」が遭難し、豊浜の海岸に漂着した。村の人々は唐人たちを全員助け出し、大島の大安寺で約三か月間手厚くもてなした。身振り手振りで打ち解けて、かるたや碁、将棋、浄瑠璃を楽しんだと伝えられている。御礼にもらった唐人船のマストでつくられたのが豊浜唐人橋である。

(4) 早苗庵^{ちせき}知碩と俳句

明治6年（1873年）、郷土の俳人早苗庵知碩が、大島小学校の教員となった。若い頃から知碩は、今の掛川市東山口の住人柿園嵐牛（松尾芭蕉の流れをくむ俳句の宗匠）の門に学んだ。知碩の俳句に対する熱心さはすさまじく、一日の農作業を終えた後に、中野村から浅羽を通りぬけ法多山、法多山から逆川の上流近くの柿園嵐牛宗匠のもとに赴き教えを乞うた。帰りは、用意しておいた藁草履に履き替えて、夜を徹して帰宅したことも度々であったという。その往復の道のり48キロメートル。帰宅するとそのまま家の仕事や農作業にかかったといわれている。その名は遠州一帯に知られ、門下生数百人を育てた。

明治・大正の頃の中野村は、人々が集まると、俳句を作る会があちこちで開かれた豊かな文化の里であったといわれている。

(5) 豊浜ふるさと学習室

平成27年12月17日、開校記念の日に合わせて「豊浜ふるさと学習室」が、南校舎3階に開設した。この部屋には、このまちに生まれ、このまちに育ち、このまちで懸命に生きた人々の足跡が残されている。誇り高きふるさと豊浜の歴史を見つめ、残してきたたくさんの人々の思いを感じられる場であり、これからの豊浜を紡いでいく子供たちの学びの場となっている。

3 学校教育目標（はまぼう学府教育目標） 3年目

「互いを認め 未来をともに創る子」の育成

豊浜小学校は、地域の歴史や文化、ひと・もの・ことを活かし、子供たちが学びを通して自分や友達のよさを認め合い、夢や目標をもちながら自分の生き方の選択肢を広げていくことができる教育を目指します。

○「互いを認める」

周りの人と関わり安定した関係を築くには、コミュニケーション力が必要です。コミュニケーション力は、自分の気持ちや考えをまとめ、整理し、相手を意識して言葉を選びながら適切に伝える力と、相手が発信したことを理解する力です。他者と関わりながら「自分は、どんな強みや弱みをもった人間なのか」を理解していく過程で、自己肯定感や自己効力感がもてることで、自分自身のことを認めたり、他者をありのまま受け止めたりすることができるようになります。

○「未来をともに創る」

自分や地域の未来をよりよいものにしていくには、夢（志）や目標をもつこと、そして周りの人と対話を重ね、知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力が必要です。それには、今、自分が生活をしている学級や学校の課題に気づき、協力して解決しようとする体験が大切です。体験を通して身に付けた知識や思考力等が、主体性（正しいと思うことを自分で判断し本気で行動する力）や、レジリエンス（うまくいかなくても折れない心・変化に対応する力・しなやかさ）を生み出し、「未来」という可能性に向かって自分の生き方の選択肢を広げていくことができます。

4 豊浜小が育てていく子供の姿

(1) 子供のよさ

- 素直で優しい、素朴で人懐こい
- 真面目で、任されたことはしっかり取り組もうとする
- 学年を越えて仲がよく、下級生の面倒見がよい
- ふるさと豊浜を愛する心が根付いている

これらの表れは、これまでの教育活動の積み重ねの成果です。

(2) 育成面での課題

- ▲ **基礎基本の学力** 学習内容を理解するのに時間がかかり、思考を伴う問題は挑戦したがらない。学習習慣を定着させたい。
- ▲ **基本的な生活習慣** 挨拶や場に応じた言葉遣い、規範意識等を自ら改善していこうとする態度を育てたい。
- ▲ **主体性** 答えが出たことに満足し、さらに見方・考え方を広げて考えてみようという姿勢に欠ける。また、自分で考え判断することが苦手で、指示を待つ傾向がある。

このことから、「豊浜小が育てていく子供の姿」を、次のように設定します。

- a 「わかった」を実感し、関わり合い学び続ける子
- b 自分や友達を大切にし、協力する子
- c 心身を鍛え 自分で考えて行動する子

を育てていきます。

5 「豊浜小が育てていく子供の姿」の具現に向けた手立て

a 「「わかった」を実感し、関わり合い学び続ける子」の具現に向けた手立て

子供が自分をあらわにして対象に働きかけ、自分の言葉で友達と関わり合いながら課題を解決していく中で「わかった」を積み重ね「基礎基本の学力」を伸ばす手立てを講じます。

ア きめ細かな指導及び基礎・基本的な学習内容の定着

- 豊浜っ子の学習、家庭学習の充実

イ 「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくり

- 授業の見通しがもて「学びたい」思いを抱くことができる単元始のガイダンス
- 「聴く・話す・訊く」対話活動の充実
- 自分ごととして学ぶ「探求する時間」の設定

b 「自分や友達を大切にし 協力する子」の具現に向けた手立て

「基本的な生活習慣」を確立するため、「ア：様々な集団活動の場で他者から学び、振り返りながら自身がより生きやすく生活できる術(スキル)を身に付ける手立て」と、楽しく学校生活を送るため、「イ：子供が主体的に創意工夫できるよう時間を設定し、計画・実行できる手立て」を講じます。

ア 「気持ちのよい対応力」を付ける取組

○挨拶・返事

- *「返事」：単なる「ハイ」の返事のことではなく、授業等で講師を招聘した際、個人または全体に向けて講師の方が質問されたときには無反応に終わらず、主体的に自分の感想なり考えなりを表出できる子でありたい。

○言葉遣い

イ 学級活動や委員会活動を軸とした、児童の主体的な活動を保障する場の設定

- 学級活動、委員会活動

c 「心身を鍛え 自分で考えて行動する子」の具現に向けた手立て

危機や困難を乗り越えていくたくましい心と体を育てる手立てと、失敗してもあきらめずに、次はどうすればいいのかを「主体的」に考えて粘り強く取り組むことができる手立てを講じます。

ア 目標に向かって粘り強く運動する体育指導

- 運動会
- 縄跳び集会

イ 健康や防災に対する関心を高める保健・安全指導

- 健康5か条
- 避難訓練
 - *「避難訓練」：子供が、訓練を自分ごととして捉えて取り組めるよう、想定を変えながら命を守るため教えて考えさせる訓練を行います。

6 学校経営の方針

- a 子供に寄り添い、一人も独りにしない学校づくり
- b 体験を通して、子供が主体となる授業づくり・学級づくり
- c 地域から信頼され、愛され続ける関係づくり

(1) 学校経営の具体

a 子供に寄り添い、一人も独りにしない学校づくり

- a-1：人権尊重の精神を基盤に、一人ひとりの違いを認め、他者とよりよくつながろうとする**所属感のある学年経営**を推進します。
- a-2：子供の取組の結果ではなく**過程を見取り、具体的に褒めます。**（**学校風土の醸成**）
- a-3：週1の職員打合せで、子供の実態を把握し情報を共有します。
- a-4：SC・SSW・巡回相談等による多面的な子供理解を図ります。
- a-5：必要に応じてケース会議を開き、子供の行動の原因や背景、短期目標を決め、支援（具体的取組・医療や福祉機関との連携）を検討します。

b 体験を通して子供が主体となる授業づくり・学級づくり

- b-1：生活・学習のきまりを学校全体で共有・徹底し、**温かさと緊張感のある学びの場**をつくります。
- b-2：子供が、**自分ごととして学び**、生き方の選択肢を広げられる授業をつくります。
- b-3：「聴く・話す・訊く」力を付け、学びを深める対話につなげます。

c 地域から信頼され、愛され続ける関係づくり

- c-1：子供の**安全を最優先**にした運営をします。
- c-2：総合的な学習では、「豊浜ふるさと学習（郷土学習）」を充実させ、学校と地域との連携や協働、そして、**ふるさとを愛する心を醸成**します。
- c-3：**ASDK運動**を、はまぼう学府の共通実践項目として取り組みます。
 - A. 礼節（挨拶・礼儀・言葉遣い）
 - S. 美化（そうじ・整理整頓）
 - D. 学習（読書・学習習慣）
 - K. 健康安全（交通安全・生活習慣）

(2) ファミリー豊浜

「働き方改革」は、**教職員が心身ともに健康を保つことができる環境を整え、子供たちに効果的な教育活動を持続的に行うことができるようにするための取り組み**です。

- メンタルヘルス不調の教職員が出ないようにするためにも、日頃から自分の弱み等が職員室で言い合える・受け入れ合うことのできるファミリーの関係をづくり、互いに心身の健康状態を配慮し気遣う風土を醸成します。
- 管理職が、勤務実態や分掌業務の負荷率等を把握し、勤務時間を意識した働き方ができるよう夢コーディネーターに働きかけ意識改革を推進します。
- 「3ゼロ+2（交通事犯ゼロ・体罰ゼロ・わいせつゼロ+情報の厳重管理・適正な会計及び事務手続き）」を厳守し、日頃から相談し合える関係づくり、報告連絡相談の徹底、教職員相談員の存在の周知、職員打合せ時での不祥事根絶の誓い等を行い、不祥事を**絶対に**起こさない職場にします。